【講演要旨】

林亮太（武蔵野美術大学）

「特級呪霊に育つ前に：ダーウィンの呪いと解呪の試み」

本シンポジウムのタイトルにはこうある。「進化思考の光と影」。しかし『進化思考批判集』で述べた通り、進化思考における進化理解には誤解を招くというレベルではなく完全に間違った理解が満ち満ちており、そこに光はないように思える。が、あえて光を見出そうとするのであれば、進化について考えうる間違いを網羅的に犯しているところが挙げられよう。このような理解は間違いだよ、「種の起源」や教科書にあたってみよう、と進化思考における間違った理解を一つ一つ潰していくことで、これまで曖昧だった理解が深まった面があるのはたしかだ。ちょうど批判集の直前に出版された千葉聡著『ダーウィンの呪い』では、『種の起源』の出版から「進歩せよ」を意味する『進化の呪い』、生存闘争と適者生存の誤解から生じる「生き残りたければ、努力して闘いに勝て」を意味する『闘争の呪い』、そして「この規範は人間社会も支配する自然の法則だから、不満を言ったり逆らったりしても無駄だ、とダーウィンもそう言っている」という『ダーウィンの呪い』という３つの呪いが生じたという。進化思考には、この３つの呪いが満ち満ちている。『進化思考批判集』は、進化思考を通して世に満ちる『ダーウィンの呪い』の解呪を試みる三人の術師たちの闘いの記録である。

-